

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

人類に奉仕するロータリー
Rotary Serving Humanity



活動するロータリー
Rotary Acting

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム 2016～2017 富津中央RC会長 榎本 守男
国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2476 第30回例会 2017. 3. 9 晴

点 鐘： 榎本 守男 会長
進 行： 栗原 典子 副 SAA
ソング： 我等の生業

会長挨拶

榎本 守男 会長



皆さん、こんにちは。先週は、神子恒会員の素晴らしい卓話でした。セブ島でのスキューバダイビングのお話で、思わずその世界に引きずり込まれました。魚がサンゴを齧る音、ウニの美しい姿など海中の音と映像が感じられる内容で想像力をかきたてられました。神子会員はロマンチストだと認識を改めました。ありがとうございました。

先週は時間が無くて話せなかった会長挨拶を少し長めにさせていただきます。神子会員の様にロマンチックな内容ではないのでご容赦ください。

2月28日の読売新聞に連合会長と経団連会長のトップ会談の記事が掲載されていました。「働き方

改革」の中での残業時間の上限規制についての内容でした。経団連側は繁忙期 100 時間の残業を認めるべきであるとの主張であり、一方連合側は年間 720 時間以内で月間最大 60 時間にすべきであるとの主張を譲りません。経団連側は「企業存亡にかかわる。」一方、連合側は「労働者の命を守る。」どちらも引くに引けない状態となっています。連合の会長はメディアのインタビューに「頑張れば賃金が上がるという常識を取り戻すことが極めて大事だ」と話されました。私は違和感があります。給料は従業員の頑張りで決まるのではなく、あくまで企業の成果、利益の中で決まることではないでしょうか。給料の源泉は企業の利益にあると思っています。連合会長の言う「頑張れば」が何を指すのかは分かりません。徹夜？根性？やる気？忍耐？でしょうか。

ヤフーで配信されるニュースにこんな記事が掲載されていました。東京オリンピック当時の高度経済成長期と違って労働人口は減り、長時間労働で多くの労働者が疲弊し、過労による自殺者が年間何百人も発生する中で考えるべきことは、徹夜で頑張る収入を増やすことでは無く、頑張る方を見直すことだと書かれていました。そこにロバート・キヨサキ著「金持ち父さんのキャッシュフロー」の逸話の部分が紹介されていました。私も早速通販で買って読みました。「頑張る事」について解かりやすく書かれていたので登場人物を会員の名前にして要約して

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館 Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>
Mail home@futtsuchuo-rotary.org



話します。

水不足に困るある町の長老克さんは二人の男性に水の調達を依頼した。二人を選んだのは競争と安定供給の狙いがありました。真面目な哲夫君は早速バケツを二つ買って遠く離れた湖から毎日一生懸命水を汲んできました。

一方、高橋君は依頼を受けると姿を消してしまいました。哲夫君は競争相手がなくなったことを喜んでいました。数カ月後やっと高橋君は戻って来ました。彼はビジネスプランを立て投資家から資金を調達し、会社を興して技術者を雇い、村と湖を水道のパイプラインでつなげました。しかも高橋君は村人にバケツで水を運ぶ哲夫君の 1/4 の価格で、水を売り始めたのです。しかも哲夫君が汲んでくる土の混ざった水より高品質で、土日に仕事を休む哲夫と違い 24 時間 365 日、自由に水を使ったのです。哲夫君は何とか対抗しようと、高橋君の会社と同じ水準まで価格を引き下げて、二人の子どもにも仕事を手伝わせたのです。これを家業とし子供に継承しようと考えていました。しかし子どもは大学に進学するために町を出た後は戻ってくることはありませんでした。

哲夫君は水の運搬人を雇っていました。組合は賃上げと福利厚生の実を要求し、更に一度に一つのバケツしか運ばなくていいようにしてほしいと要求してきたのです。

一方、高橋君は水に困っている村は他にもあるに違いないと、ビジネスプランを書直し世界中にある未開発の町を訪れ高速、多量、安価高品質の水の供給システムを売って歩いたのです。それから高橋君は世界中で一生懸命に働き、哲夫君も毎日この街で必死に働いています。もちろん二人とも幸せでした。おしまい。

私達はパイプラインを建設しようとしているのか、それともバケツで水を運ぼうとしているのか？私達は**懸命**に働いているのか、**賢明**に働いているのか？

自分の到達点に向かうべく努力すべき場所の選択が肝心であると思いました。

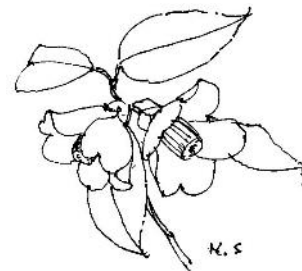
以上会長挨拶でした。

幹事報告

渡辺 哲夫 幹事



1. 八千代RCより、創立50周年記念式典の案内が来ております。(回覧)
2. 「国際奉仕委員会アンケート」集計結果の送付がありました。(回覧)
3. 木更津RC・君津RC・富津シテイRCより、会報が届いております。(回覧)



年頭所感

若鍋 武良 会員



今年の抱負を述べそびれてしまいましたので、今思っていることを話して抱負とします。

1ヶ月前の2月9日は、文豪夏目漱石の生誕150周年にあたります。慶応三年(1867年)新暦で2月生まれの夏目漱石は文豪としてよく知られています。

明治33年にイギリスに留学、帰国後東京帝国大学講師として英文学を講じながら、38歳の年に「我輩は猫である」を雑誌『ホトギス』に発表。これが評判になり「坊ちゃん」「倫敦塔」などを書き、その後朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」「行人」「こゝろ」など多くの名作を執筆し、「明暗」が絶筆となりました。11年間の作家生活でした。

しかし作家生活に入る前は当代一の英語学者であり英文学者でした。漱石は明治26年東大英文科卒業、東京専門学校(早大)・東京高師・松山中学・五高で英語を教え、明治33年英国留学、同36年一高教授・東大英文科講師に任じられ、日本人初の帝国大学英文科講師になったのです。前任者はかの有名なラフカディオハーン(小泉八雲)でした。その後英文学者から作家に転身し、亡くなるまでの11年間で不朽の名作をたくさん世に残しました。漱石生誕150周年にあたり英語教師としての夏目漱石の足跡を辿ってみたいとなりました。

委員会報告

平野安照 社会奉仕担当部員



花いっぱい運動の活動スケジュールについて、日時等が決まりましたので、ご連絡させていただきます。

- ① 4月9日(日)10時から、君津青果市場内に於いて、プランターに土を入れ、花苗を植える作業を行います。
- ② 4月11日(火)10時から、寄贈対象施設へプランターの搬入作業を行います。
施設へプランターを搬入する際に、軽トラック(不足の場合は、2t車含む)をお持ちの会員は、是非ご協力をお願い致します。

ロータリー財団 千葉一利 担当部長
財団の寄付集め終わりました。財団におくりました。今まで毎年1万円をお願いしましたが、今年度地区の目標が130ドル、しかも我がクラブは財団より活動補助金を頂いているかんけいもあり1万5千円をお願いすることとしました。

平野会計さん、藤江事務員さん始め、全員の皆様のご協力に感謝申し上げます。

次に別件ですが、昨日家の中を整理していましたら米山功労者の感謝状が出てきました。活動計画書のクラブ資料には功労者としての、私の名がありません。確認をお願いします。

別件2ですが、近頃体の調子が良くありません。従って行事に参加できずご迷惑をおかけしています。お許してください。

先週の卓話

私とセブ島

神子 恒 会員



本日は、誕生日のお祝いと、卓話のお時間をいただけたということで大変ありがたい思いです。

とは言いましても、普段不勉強な私ですので、研究の成果などをお話しできませんが、年に1~2回スキューバダイビングのインストラクターの仕事で、セブ島に参りますが今回は、19・21・46・51歳の新人ダイバーが誕生いたしました。

年齢を超えた、生徒たちの付き合いと、ライセンス取得に対する彼や彼女たちの真摯な向き合い望み方に接して、新しい感動を受けさせていただきました。私69歳まだまだ止められません。

ニコニコ BOX

岡田良弘 親睦担当部員



- 石渡 鋼 奥飛騨平湯温泉は1mの雪でした。
- 渡辺 務 市議会で同期の十川敬三元議員がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。
- 大網庄一郎 卓話をさせて頂きました。
- 千葉一利 財団寄附、有難うございました。
- 若鍋武良 年頭所感させて頂きました。

出席報告

渡辺 務 出席担当部長

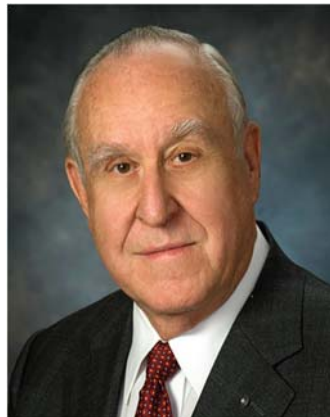
区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	31/28	20	8		71.43%
前回	31/28	23	5		82.14%
前々回	31/28	19	9	1	71.43%



2016-17 年度

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム
メッセージ

人類に奉仕するロータリー (前編)



111年の歴史の中で、ロータリーは多くの人に多くの意味を持ってきました。会員は、ロータリーを通じて友人と出会い、地域社会とつながり、目的意識を持ち、人びととの絆を育み、キャリアを築き、ほかでは

味わえない貴重な経験をしてきました。毎週、世界34,000以上のクラブのロータリアンが、語らい、笑い、アイデアを分かち合うために集います。しかし、私たちが集う一番の理由は、最も大切な目標、すなわち「奉仕」のためです。

ロータリーの初期から、人類への奉仕はロータリーの礎であり、主な存在理由となってきました。今日の世界で意義ある奉仕を行う最善の道はロータリー会員になることであると、私は信じています。また、世界に確かな変化をもたらすために、ロータリーほど優位な立場にある団体はないと考えています。

さまざまな分野から熱心で有能な職業人が集まり、壮大な目標を実現できる団体も、ほかにありません。ロータリーには、世界を変える力、ネットワーク、知識の結集があります。ロータリーに限界があるとしたら、それは私たちが自分自身に設けている限界にすぎません。

